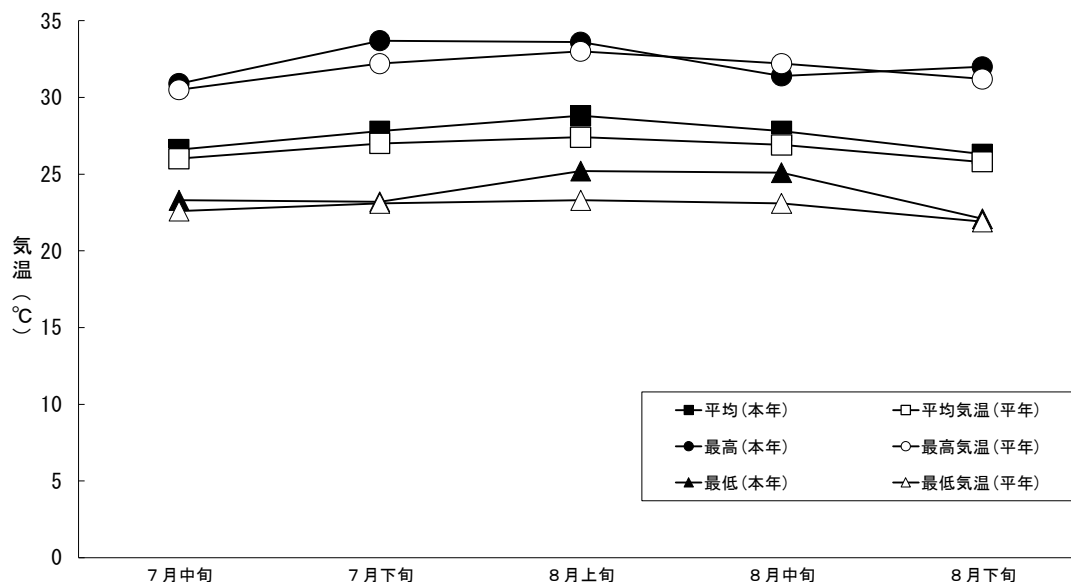


令和 4 年 お茶づくり技術情報 (No.9)

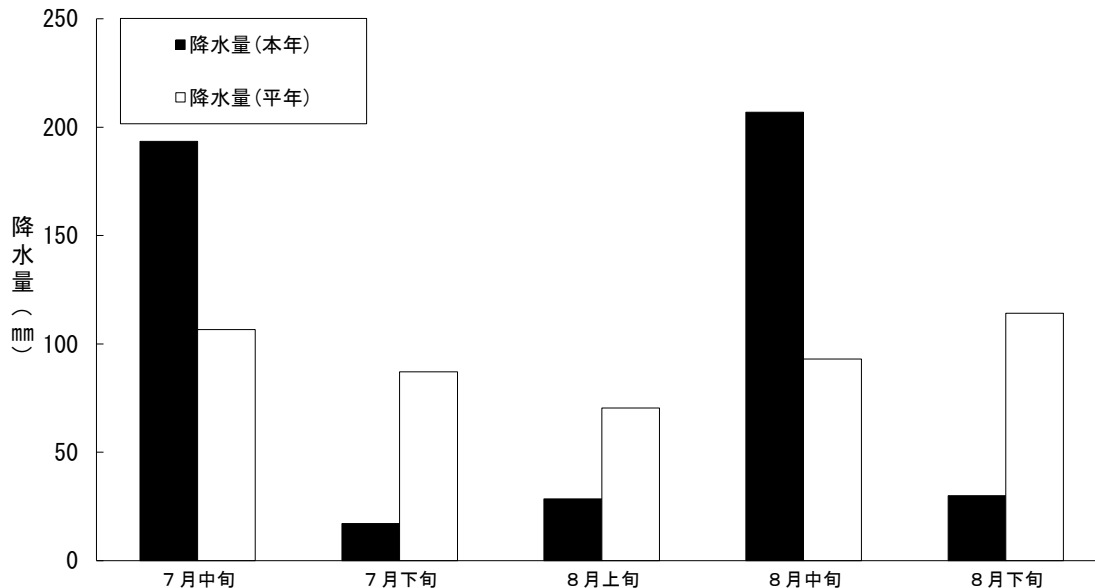
2022 年 9 月 9 日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 気象概況

1) これまでの気象(2022 年 7 月～)



(1) 平均気温は、7月中旬から8月下旬まで平年より高く推移した。



(2) 7月中旬および8月中旬は平年より多く、7月下旬、8月上旬および8月下旬は平年より少なかった。期間降水量は476 mm(平年比 101%)で平年並だった。

2) 今後の気象

■ 1か月予報 (気象庁、2022 年 9 月 1 日発表)

1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温 (1か月)	降水量 (1か月)	日照時間 (1か月)
九州北部地方 (山口県含む)	低20 並30 高50% 高い見込み	少20 並30 多50% 多い見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み

- (1) 暖かい空気に覆われやすいため、平均気温は高くなる見込み。
- (2) 気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1カ月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。

2. 今後の管理

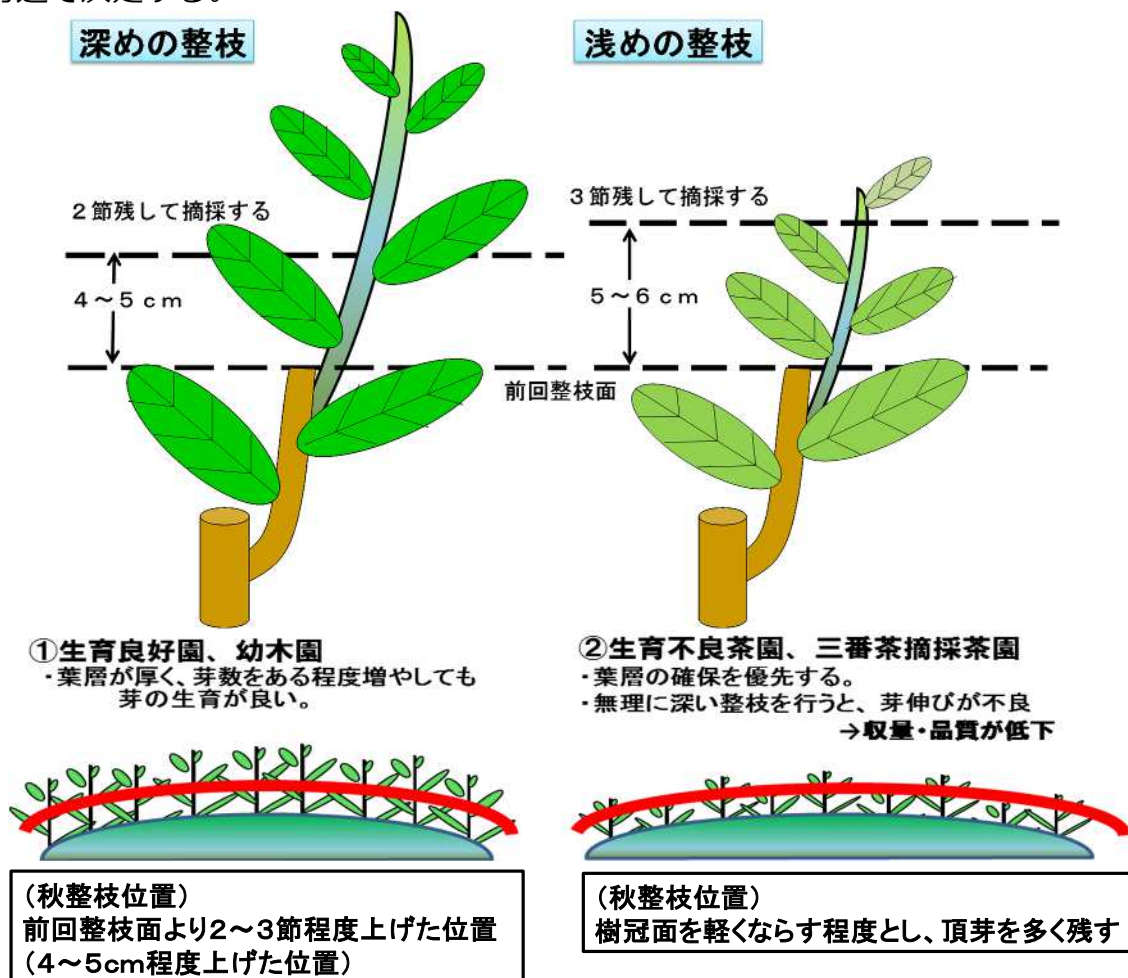
1) 秋整枝

(1) 整枝の時期

- ・秋芽の生育が停止する時期に行う。
(平均気温：18～19℃以下が目安、例年10月上中旬ごろ)
- ・整枝の時期は、越冬芽の大きさが小さい場合に早く、大きい場合は遅らせる。
(芽が大きいと再萌芽のリスクが高まる)
- ・早生品種(さえみどり等)、早場地帯、幼木園や更新園は、比較的低温の時期まで芽が生育するため、整枝を遅らせる。
- ・秋芽が繁茂した茶園では、一度に深い位置で整枝すると日焼けを起こす場合があるため、本整枝の7～10日前に仮整枝を行う。

(2) 整枝の位置

- ・生育が良好な茶園では前回整枝面の2～3節上で(下図①)、生育が不良な茶園では軽くならす程度に整枝を行う(下図②)。
- ・一番働く葉(光合成能力の高い葉)が表面に出るように調節する。
※葉厚が厚く、色の濃い葉は光合成能力が高い。
- ・整枝位置は、茶園の端で高さを決めると低くなりがちのため、なるべく園の中央付近で決定する。



2) 土壌・肥料

(1) 秋肥の施用

- ・秋肥の目的は、樹勢の回復と次年度の一番茶へ向けた養分蓄積、枝条の充実を図るためである。
- ・この時期の茶樹の養分蓄積の程度は翌年一番茶の生育に大きく影響し、一番茶新芽に含まれる秋肥窒素の割合は12%程度（下表）と重要である。

表 各施肥時期の窒素が一番茶の新芽窒素に占める割合

施用時期	摘採前年			摘採当年	
	夏肥 1	夏肥 2	秋肥	春肥	芽出し肥
一番茶 (%)	1.3	3.3	12.3	14.0	12.8

注1) (烏山ら) より一部抜粋

注2) 施肥窒素以外の窒素には、有機物等に由来する土壌窒素や樹体内に貯蔵され新芽に移行した窒素が含まれる

(2) 施用時期

- ・平坦部では9月中下旬ごろ、山間部では9月上旬ごろまでに終わるようにする。

(3) 土壌 EC 値の動き

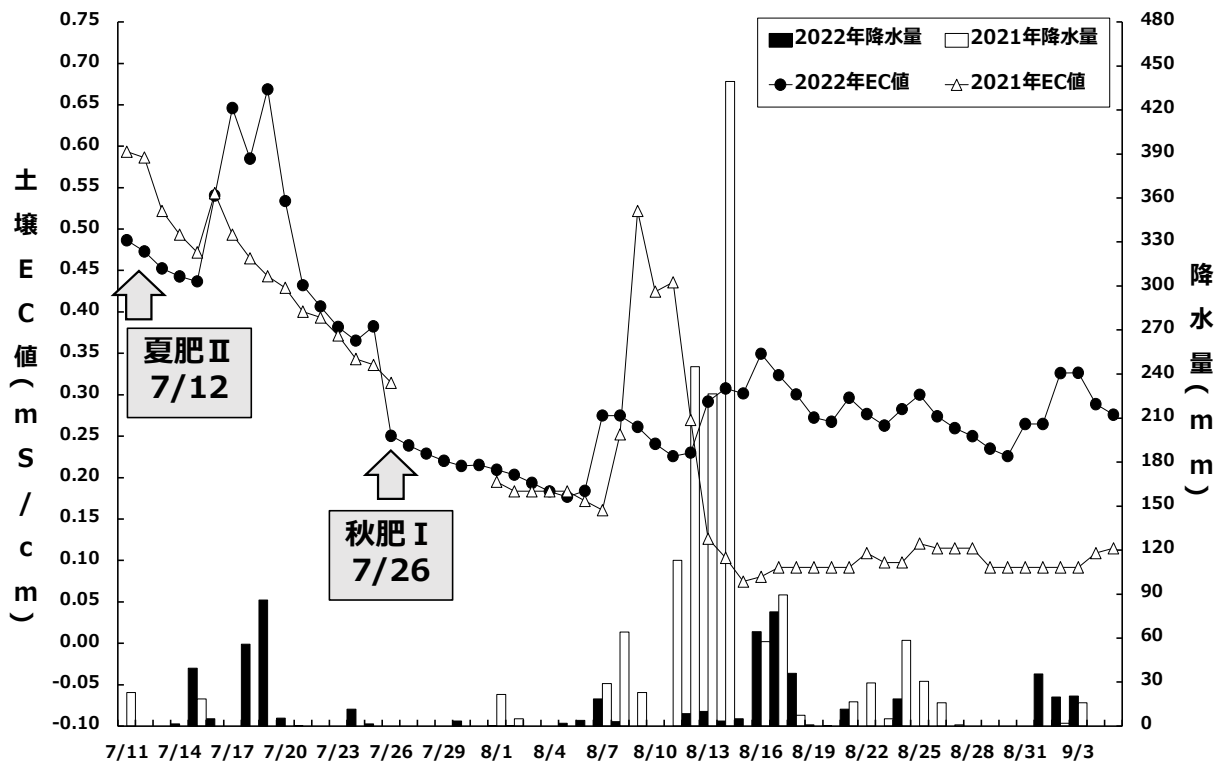


図 茶試作況調査園における土壌 EC 値の推移

注1) 本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき推定した値を示す

- ・土壌 EC 値は、秋肥 I 施用以降に降雨が無かったことで低下したが、8月上旬の降雨により上昇し、その後も適度な降雨が続いたことにより大きな変化もなく推移した。

3) 病害虫対策

病害虫防除の詳細については、『令和4年度佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき』を参照してください。

URL : <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321964/index.html>

